

2022. 5. 7～9

劔岳 源次郎尾根 報告書

記 柴田



計画書整理 No.

期 間：2022 年 5 月 7 日（土）～ 9 日（月）

種 別：合宿

参 加 者：河本さん、柴田

コースタイム：5 月 6 日（金）23:15 バスタ新宿発

5 月 7 日（土）6:00 富山駅→8:15 立山駅→10:30 室堂→11:15 雷鳥澤キャンプ場
→14:00 剣御前小屋→14:45 剣沢キャンプ場

5 月 8 日（日）7:30 剣沢キャンプ場→7:50 平蔵谷出合→11:40 源次郎 I 峰
→13:00 源次郎 II 峰→15:00 劔岳→17:00 長次郎のコル→17:45 熊の岩
18:30 長次郎谷出合→21:30 剣沢キャンプ場

5 月 9 日（月）8:30 剣沢キャンプ場→9:30 剣御前小屋→11:30 雷鳥澤キャンプ場
→12:00 室堂

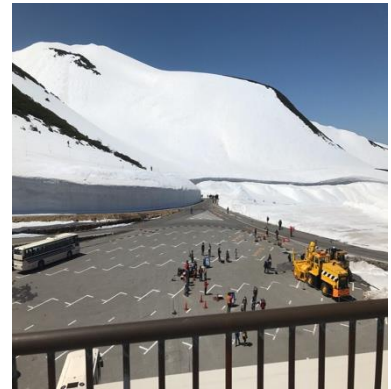
記録

6 日夜から関東を出発し、7～9 日の 2 泊 3 日で劔岳源次郎尾根に登攀した。

以下、詳細

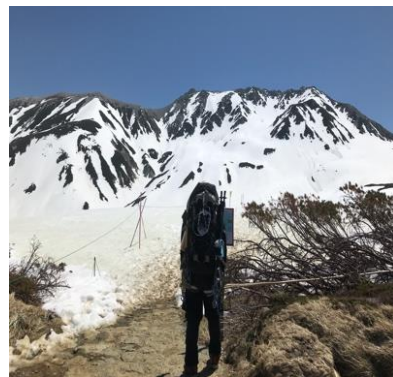
5月7日（土） 晴れのち曇り

5月6日 23:15 バスタ新宿発の夜行バスに乗って、6:00 前に富山駅に到着した。朝食等を済ませ 7:00 過ぎの立山行き電車に乗車した。先日の落石の影響もありゴンドラは混雑しているかと思ったが、予想に反して当日現地でチケットを購入し 20 分後発位のゴンドラ・バスに乗車できた。予定通り室堂到着は 10:30 頃だった。



立山駅 室堂までのバス(車内アナウンスもあった) 有名な雪壁

そこから支度をして出発、周りは観光の方やバックカントリーが多く、登山をされる方は少数派に見えた。硫黄の匂いを感じながら、トレース伝いに 45 分ほど歩くと雷鳥沢キャンプ場に到着した。幕もそこそこに張ってあって、キャンプをする為にわざわざここまで来る方がいたり、バックカントリーを楽しむ方がいたりするようだった。キャンプ場から剣御前小屋方面を見上げると溜息の出る急登で、アイゼンを履こうか迷ったが昼になり雪がグズついてほそうだった為そのまま登り始めた。先の通りの、ここでも板を履いた人やボードを担いだ方が多く、登山道の脇を滑走しているようだった。



室堂出発

雪が溶けている箇所もあった 雷鳥沢と剣御前小屋

日差しも強く気温もそこそこだったので汗をかきながら、2 時間ほど雪面を直登すると、夏道に出た。雪が解け土混じりの道を 10 分ほど歩くと剣御前小屋に到着した。しばし休憩のち小屋を右手に後にして雪面を降っていくと 30 分ほどで剣沢キャンプ場に到着した。

連休中のものと思われる整地された箇所が幾つかあって尾根筋の場所を利用して貰った。また有難いことにトイレが掘り出してあって、入り口は狭く中は暗いものの利用する事ができた。我々の他には一幕張ってあり行動中の様

だった。早めの時間に到着出来たので明日のルートを目視で確認後、20 時頃就寝した。



劔御前小屋までの登り



小屋からの降り(劔岳がよく見える)

5 月 8 日(日)晴れのち曇り

朝轟音で目が覚めた。雪崩でも起きたのかと思ったが、外を見るとどうやら強い風が吹いている様だった。雪か氷の粒がテントに打ち付けられる音が酷くテントが埋まらないか心配だったが、降雪はなく雪煙が舞っているだけだったが、音でその後は中々寝付けなかった。

当初は 3 時頃起床し、5 時出発の予定だったが、外があまりにも強風の為、5 時の出発を断念し、アタックも翌日にしようかと迷っていたが、徐々に風も落ち着いて来て、7 時頃には行動が出来るレベルになった。そこでアタックを決意し、テントも畳まずにそのまま 7:30 に劔沢キャンプ場を出発、出発と同時にほぼ風も止んでくれた。

出発が遅れた事もあり、気持ち早めの足取りで劔沢を降る。小屋の脇から沢へ降りて沢筋を降りると 30 分もかからずに平蔵谷出合に到着した。雪渓特有のガスで視界が悪かったが、平蔵谷の隣の尾根が源次郎だと信じて、明瞭なトレースはついていなかったが平蔵谷から少し降ったルンゼを詰めて行った。ルンゼは中々の急登でダブルアックス、キックステップでの登りとなった。雪の締まりも良く刃も良く通ったのでサクサク登り進める事ができた。ルンゼを詰めきると正面真ん中に大きな木が生えていて、奥は岩壁になっていたのも、そこから左に避けて雪面を登っていくと尾根筋に飛び出た。尾根上は明瞭な踏み跡があって一安心、少し登ると夏道らしき場所に辿り着いた。上を見上げるとⅠ峰が正面に見えていた。



劔沢



平蔵谷出合



源次郎尾根取付



取付からのルンゼ



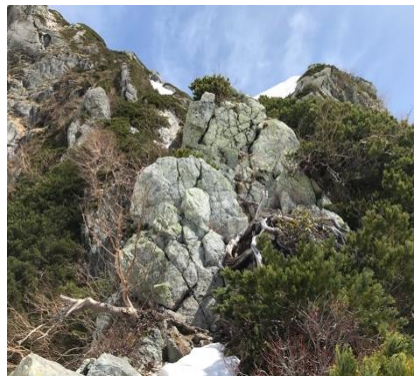
高度を上げる



この辺りから左へ



尾根筋に出る

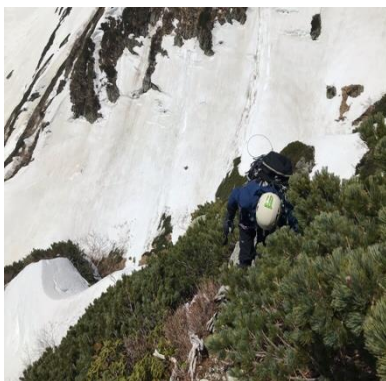


夏道？



I 峰

そこからは岩や灌木、雪のミックスで所々どちら側から登るか迷う箇所もあったが、進む方向は明確だったので、スムーズに進む事ができた。I 峰の手前の岩場が悪く高度感もあったので、ザイルを出すか迷ったが慎重に足を置きながらノーザイルで無事抜けるとまた雪稜になり登り詰めるとI 峰のピークに着いた。ピークからはII 峰が真正面によく見えてトレースも目視出来た。I 峰から鞍部まで急な雪壁を後ろ向きで慎重に降り、II 峰へ登り返す。登り返しは雪とハイマツが出ている所があって、ハイマツ帯に突っ込みながらアイゼンを引っ掛けながら必死に登って行くことになった。ある程度登ると傾斜も弱まり綺麗な雪稜になって気がつくとII 峰のピーク付近だった。II 峰のピーク周辺はそこそこ鋭いリッジになっていて、跨りながら進んでいくと懸垂点に辿り着いた。



夏道？



雷鳥



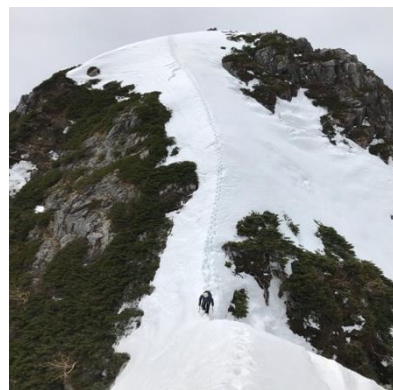
I 峰手前



I 峰手前(雪稜)

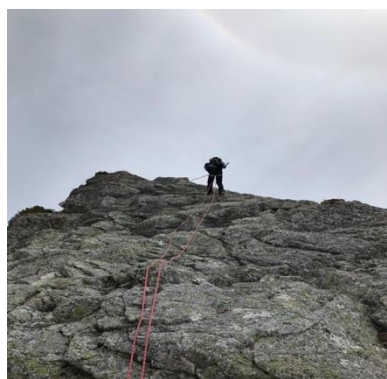


I 峰から II 峰

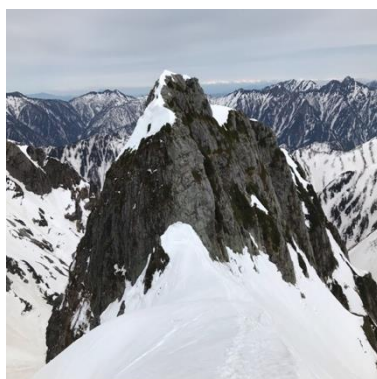


I 峰を振り返る

懸垂視点はかなり強固で、雪にも埋もれておらず使い易い物だった。足りるか少し懸念していたが、50m ロープ一本(25m)で4.5m 余らせて鞍部まで下降する事が出来た。ここからは前に見えている劔本峰を目指してひたすらの雪稜歩き。特段難しい箇所も無く、迷う箇所も無かった。15 時前に劔岳山頂に到着、空は薄い雲がかかっていたが、富山湾もよく見え景色も素晴らしかった。



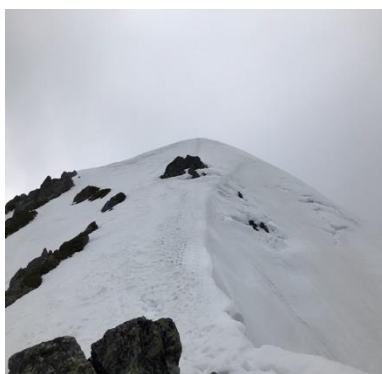
懸垂下降



II 峰を振り返る



雷鳥と八峰



劔岳山頂手前



山頂の祠



日本海

記念撮影を終え少し休憩した後、長次郎のコルへ下山開始。トレースも付いており安心して降っていたが、長次郎のコル手前が想像以上に悪かった。傾斜が強く、全く信頼できないトラロープが張ってあるがそれ以外はほとんど手掛かりがない。結局ザイルを出してスタカットで降る事にした。岩壁に薄く雪が付いている箇所もあり、アックス・アイゼンが効かずヒヤヒヤしながら丁寧に降った。そんなこんなで2.3 度ザイルを伸ばして結構時間を食ってしまい長次郎のコルに到着したのは17 時頃になってしまった。



長次郎のコル手前

そこから剣沢まで長次郎谷をひたすら降っていく。上から見ると急傾斜に見えたが入ってみるとそれ程でもなかったが、谷の中はデブリが凄くこれまたヒヤヒヤしながら急ぎ足で下山した。1:30 程で出合まで降り切ると、そこからはまたキャンプ場まで 600m の登り返し。ここからは本当にバテバテで危険箇所等はないものの、行きは 30 分で降った所を 3 時間かけて登る事になった。なんとか 21 時過ぎにキャンプ場に到着し、テントの無事を確認。テントの重しに使っていた雪袋が破けてテント内がビチャビチャになっていたが、外気温がそこまで低く無くて救われた。疲れ果てて夕食を食べて即就寝。



長次郎のコルから降る



長次郎谷



長次郎谷出合



行きに登ったルンゼ

5 月 9 日(月)曇りのち雪

6 時過ぎに起床し、8:30 頃剣沢キャンプ場を出発。剣御前小屋付近で電波が通じたので、帰りのバスを予約した。幸い当日の富山駅から横浜駅までのバスに空席があった。剣御前小屋からの降りは雪が固まっていたアイゼンを履かないと降れない状態だった。雷鳥沢キャンプ場まで降りきると後は緩い登りで 1

時間も経たずに室堂に到着した。剣御前小屋辺りから降り始めた雪は、室堂に降りる頃には本降りとなっていた。室堂で昼食を済ませて当日券を購入し、20分後バスに乗車、ケーブルカー・電車を乗り継いで富山駅まで戻り、富山から二駅ほどの満天の湯で入浴した。その後富山で幾らかお酒を飲んで神奈川まで帰った。



満天の湯

感想

今回は春合宿という事で、昨年山頂を踏めなかった劔岳ヘリベンジも兼ねて源次郎尾根に登攀してきました。源次郎尾根の登攀はそこまで難しい箇所はなくて、所々緊張感のある箇所はありましたが、体力勝負で気持ち良く登山ができました。登攀中は天候にも恵まれ、幸い道に迷う事もなくむ無事山頂を踏む事が出来きて本当に嬉しかったです。とても満足度の高い山行となりました。また今回はバス・電車等公共交通機関を使って室堂まで移動しましたが、移動にあまり体力を使わず、2人でなら安く済んで良かったと思います。

遅くなりましたが、改めて素敵な山行を共にしていただいた河本リーダーに感謝致します。